

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を玄関と各ユニットに掲示し、共有することで実践に繋がるよう努めている。	理念は事業所の目指すべきところと認識し、1昨年2ユニットに増設を機に再度職員全体で話し合い、事業所独自の理念を作り上げた。玄関や各ユニットにも掲示し、外部者にも見てもらえるようにしており、管理者と職員は日々の中でも話し合いながらサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会費尾を納め、総会、地域の行事や防災訓練に参加や、地元の祭り行事の訪問をお願いするなど交流を図っている。	事業所は民家とは離れているが地区内の小学校の行事に出向いたり、ボランティアの訪問、また、地域の共同作業や防災訓練への参加他、地元の祭りの訪問を受けるなどの交流も進められてきており、市の開催する「カフェ」の場を提供したり、法人特養と共に開催する夏祭りには地域の方々の参加を得る等、双方向的な関りを進めてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の催しによる認知症カフェの場所を提供し、入居者様と一緒に過ごしていただく機会を設けたり、特養と合同の夏まつりを開催し、地域の方にも参加していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で活動報告を行い、構成員の方にご意見をいただいている。また、会議録を提示し、家族にも配布し、取り組みや現況を知り、意見をいただけるようにしている。	会議は2ヶ月毎に開催され、2ヶ月間の状況報告及びサービスの実際について報告されている。参加メンバーからの質問、意見、要望を得て日々のサービス提供に活かしている。会議内容については家族にも配布され、全職員に対しても会議録等で情報提供を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村上市の介護高齢室と荒川支所から運営推進員として参加いただき、活動状況や問題点など伝え、意見やアドバイスをいただいている。また、行政の取り組みに参加するなど協力関係を築いている。	市担当職員、特に荒川支所職員とは日ごろから積極的な連携が構築されており、運営推進会議によらず、折に触れ相談、助言、連絡等が気軽になされ、共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内外研修で身体拘束をしない取り組みを学び、身体拘束になっていないかを考えたケアに取り組んでいる。夜間以外は施錠をせず、センサーなどで注意を図り安全に過ごせるよう配慮している。	職員全員が母体の研修や内部研修で身体拘束をしないケアについて定期的に学び、利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識のもとに、一人ひとりの日々の様子や行動を観ながら職員間で報告し合い、安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内外研修で虐待防止を学び、利用者の対応時に不適切な言動にならないよう、職員同士で声を掛け合い虐待防止に努めている。	社内研修で職員全員が「高齢者虐待防止法」に関する理解の浸透や法令順守に向けた取り組みに力を入れている。また、管理者は職員のストレスが蓄積されないよう様子を窺いながら声をかけたり、相談ごとにも応じることの出来る関係性を築いている。気付きがあればその場で声を掛け合い、一人ひとりの気分や状態をキャッチしながら自由な暮らしを支援している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者様に成年後見制度の対象の方はいないが、専門分野に繋ぐことができるよう、研修会に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。内容に変更があった場合は書面にてお知らせし、疑問点があれば説明を行い、変更に関しての署名捺印をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は日頃の会話の中で汲み取ったり、聞き取ったりしている。ご家族には来園時や電話などで意見を訪ね、運営に反映させている。	家族には毎月利用者の様子を手紙や電話で伝えたり、面会時には何でも話してもらえ、雰囲気づくりに努め、意見や要望を伺っている。また、利用者同士の会話の中からも情報を得たりしながら、もらった意見や要望は書き止め、職員間で共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の意見出しシートを活用し、職員会議などで検討し運営に反映している。また、日頃の会話や申し送りの活用で意見を出し合い検討している。	日々の暮らしの中での気づきや、実行してもうまいかなかったところについては管理者の理解の下、その都度話し合いをもったり、毎月の意見だしシートを活用し、会議の中で話し合いながら運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の拡充と資格取得に向けての支援や研修参加の場の提供など、目標を持って働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修やスキルアップ研修などの情報を提供し外部の研修に参加する機会を提供し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH管理者の意見交換会、荒川地区の同業者の連絡会の参加し情報交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や面談で、家族、ケアマネから情報を収集し、入居の際には、ご家族に「暮らしの情報」を記入していただき、ご本人にも望むことや困っていることを伺いながら、安心していただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や面談等で、家族の不安や疑問を傾聴し、家族も安心できるように説明することにより関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来ていただき、本人や家族の思いや状況を確認し、支援の提案を行っている。また、ケアマネ、利用されていた事業所から情報を収集し、初期の段階でどのような支援が必要なのか検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の様子を見ながら、ホームで役割を持って生活できるよう、支えあい暮らしていける関係を築くように感謝の言葉を伝えるようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真を添えて様子を伝える手紙を送り、変化があった場合は電話で様子を伝えている。また、行事や誕生会へ参加を呼びかけ、本人を支えあっていく関係作りに努めている。	家族には毎月利用者の写真を同封した手紙の中で、今までの暮らしが継続できるよう日々の暮らしの様子を報告したり相談しながら、家族との関係継続に留意し、共に本人を支えていけるように努めている。家族と共に買い物や食事に出かける機会も大切にし、誕生会など来所してもらう機会づくりにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族との関係性を継続できるよう、来訪や外出時の支援を行っている。馴染みの場所への外出や理美容室への送迎などの支援を行っている。	入居前に本人、家族からの聞き取りで馴染みの人や場について把握しており、誰でもが気軽に立ち寄れるホームとしての雰囲気づくりを心がけている。馴染みの方々の面会の支援、家族の協力を得ての外出や、在宅時から行きつけていた理美容室への送迎等も行うなど、馴染みの人や場との関係性が継続できるように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を考えての食事席の配慮や皆さんと一緒に楽しめる時間作り、関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも相談や訪問に来ていただけるように声掛けを行っている。また、町で出会った際には声を掛け合う関係性を大切にしている。退去後に亡くなったことを知らせてくださる家族もいらした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中や会話の中で本人の希望や思いを聞き逃さないよう心掛けている。本人から聞き取りが困難な場合は家族からも伺うようにしている。	家族からの情報やアセスメントシートを活用し、本人の思いや意向の把握に努めている。日々の会話の中で聞かれる言葉や表情からも思いを汲み取り、本人を主体としたその人らしい暮らしが継続できるよう職員間で共有し日々のケアに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問と担当ケアマネから情報を収集し、入居時にご家族から「暮らしの情報」の提供で把握に努めた、日々の関わりの中で本人に伺うなどしている。	入居前に本人、家族、前事業者から暮らしの情報を得ながらこれまでの暮らしが継続できるよう把握に努めている。入居後も日常の会話や生活の中で本人が馴染んできた家事や趣味、畑仕事などを活かし、これまでの生活が継続できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を日々観察し、変化がみられる場合には、申し送り簿や口頭の申し送りで情報を共有し、その都度対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行っている。見直しの際には、本人、家族の意向を確認しながら、職員からも意見を出してもらい計画を作成している。	居室担当と計画作成者が中心となり本人の意向を聴くと共に、モニタリング、カンファレンスについても、本人は勿論家族については来所時や電話で意見、要望を伺い、情報シートを活用し、職員の意見や提案も反映させ現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の記録、申し送りや、個別の情報ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度変わる状況に応じて、できる限り柔軟な対応ができるよう考えながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加や祭り行事の訪問をうけたり、地域の小中学校と交流を図るなどの交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による月2回の往診があり、専門医の受診が必要な場合は家族に連絡をとり受診できるよう支援している。また、馴染みのかかりつけ医に受診されるときは、情報提供を行っている。歯科往診の支援も行った。	基本的には家族同行の通院と嘱託医の月2回の往診があるが、必要に応じ専門医への受診も支援している。その際には日々の状態記録を持参し、薬の変更や検査結果については文書で、口頭の場合はメモを取り共有している。在宅歯科医療機関の訪問歯科医による訪問治療の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、主となって利用者の健康状態を把握して管理している。介護職は日常の関わりの変化や気づきを速やかに報告し、早期発見と適切な処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状態を情報提供し、退院前カンファレンスに参加し退院後もスムーズに施設へ戻れるような配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に終末期をどのように過ごしたいか、どのようなケアを望んでいるか意向を伺い、嘱託医と面談していただき、施設で出来ることを伝え理解した上でケアに取り組んでいる。	契約時、本人、家族に「重度化や終末期に向けた方針」を説明し、嘱託医とも面談の上で同意を得ている。看取りの経験を活かし状態変化時は嘱託医の協力の下、必要時は他の医療機関との連携も図りながら事業所で出来る限り、要望に沿った終末期にむけた支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時について研修等を行い対応している。看護師、嘱託医へ24時間連絡がとれる体制になっている。救急情報シートの用意と夜間はベル番体制と隣接施設との協力体制を整えている。	急変や事故発生時マニュアルの整備と共に、「応急手当普及員」の資格を得た職員より、応急手当、AEDの操作についての知識、技術を習得し、全職員が緊急時の対応が実施できる体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施、隣接の施設と合同の災害時の避難訓練も行い、地域の防災訓練にも参加している。	避難訓練は隣接の施設、地域の区長の参加を得て合同訓練を実施している。避難場所、避難経路の確認、備蓄の備えも整っている。地域との協力体制については民家が離れているが、区長を通じ回覧等で災害時訓練への参加を呼びかけ、協力関係の構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や人格を大切にしてい、その時に応じた声掛けに対応できるように研修を受け、プライバシーに配慮した対応に努めている。	職員は事業所の理念に基づき、常に利用者の気持ちを大切に笑顔で穏やかに接するよう努めている。プライバシー関連の研修を実施し、人格の尊重や尊厳についての振り返りを行うなど、全職員が一人ひとりを尊重した対応ができるように心掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、日々の関わりの中で、本人の希望があれば実現できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望や状態に合わせて、その人のペースで過ごされている。職員の体制や行事などで希望に添えない時は説明をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容や馴染みの理美容の外出支援を行っている。外出時には衣類と一緒に選ぶなど、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用した献立を考え、利用者からの希望をメニューに取り入れ、献立メニューは壁に貼っている。職員も一緒に会話しながら食事をしている。食事の準備や後片付けなど、できることに参加していただいている。	リビング内は広く利用者の状態や意欲に合わせて、調理から後片付け迄職員と共に行っている。四季を通し畑で採れた旬の食材を使い郷土料理を取り入れたメニューを楽しんだり、ボランティアの方と笹をとり、笹団子作りやおやつ作り等も取り入れるなど、食事を楽しむ工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックしている。一人ひとりの状態に応じて食事形態を変えたり、好みの飲み物を提供して水分補給に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをしていただき、不十分なところを職員が支援している。夕食後に義歯を預かり消毒洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、その方のペースに合わせて声掛けを行い誘導している。	排泄パターンの把握と利用者の身体能力に応じた介助や誘導、声掛け見守りを行っている。夜間オムツや、ポータブルトイレの方もいるが日中はトイレでの排泄を基本としている。また、ズボンの上げ下げ等、少しでも出来るよう自立に向けた支援と機能低下予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を付け、排便に繋がる食品を取り入れた献立や乳製品、お茶など提供している。また、運動を取り入れることもしている。必要時には内服薬等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴の提供を行っている。一般浴が困難な方には特浴で対応している。	週3回の入浴を基本としているが、個々の希望時間や状態に配慮した一般浴、機械浴の対応も可能である。私物の入浴道具にも配慮され、浴室内も明るく安全に入浴できる環境になっている。また、菖蒲湯、ゆず湯など季節の変わり湯を楽しむ取り組みも好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、日中でも居室やリビングのソファで休んでもいただき、夜間は、室温・照明など調節し安眠できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしてあり、一人ひとりの薬ケースで管理している。服薬時には名前を読み上げ内服の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや能力に応じた作業を提供し、尊厳や感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただける場所への外出や地域の行事・小中学校の行事への訪問など気分転換を図り、また、ご家族との外出の支援も行っている。	日常的に車椅子の方、歩行介助の方も日々の生活支援の一環として四季折々の花見や、地域の行事などへ出かける機会を設けている。地域の方とも話が弾み時間を忘れることもある。家族の協力を得ながら外泊、外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は職員が行っているが、外出の際には買い物ができるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話を取り次いだり、希望時には電話を掛けられるよう配慮している。郵便物を本人に渡し、返事を出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りをしたり、外の景色や花、鳥の声などで季節の移り変わりを感じていただくことができる。季節の花を提供し活けていただいている。	リビングや居室内は日当たりも良く、田園風景と緑の木々からは小鳥の声が聞こえ、四季折々の眺めを楽しむことができる。随所に季節感の花が生けられ、外出時や行事等の写真や、手作り作品を提示するなど、四季を取り入れた装飾が施され居心地よく過ごせる配慮がなされている。職員の明るい声掛け、振る舞いが利用者の心安らぐ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のソファや椅子で、気の合った同士で会話したり、思い思いに過ごされている。事務所前にはお地蔵様があり、前を通るときにはお参りをされ頭をなでていかれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望に応じて馴染みの家具や小物を自由に持ち込んでいただいて居心地の良い居室作りを支援している。	本人、家族と相談し普段から使い慣れた家具や日用品を持参してもらっている。衣類、装飾品など思い思いの配置で飾られ、在宅時の延長線上にあるよう工夫した環境の支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識ができるように貼り紙紙をしたり、本人のできることをしていただけるよう声掛け支援している。		